

# ゆうあいえほんだより

2019年9月発行

今週は雨続きで、急に朝晩と冷え込むようになりました。先週までは暑くて水遊びを存分に楽しんでいたのに、この気温の変わり具合に身体がついていけないと悲鳴を上げそうです。

さて、今月の絵本紹介は写真絵本をピックアップしてみました。絵で描かれている絵本とは違い、本物の動物植物たちの表情は写真絵本だからこそその愛らしさや愉快さを表現できるものだなと感じています。絵本を通じて、動物園に行ったり、虫捕りに出かけてみたり、川にカニを捕りに行ってみたりと子どもたちに実際に本物に触る機会を設けていただければなと勝手ながら思っています。



いい おかお  
作：さえぐさ ひろこ  
出版社：アリス館

この絵本はどの動物も表情がとても素敵。写真と文が妙に合っていて、本当に動物がそんな風に思っているのかと勘違いしてしまいたい。私は、ロバとチーターの表情が特にお気に入り。写真絵本には絵にはない面白さや愛らしさがある。同じ作者の『ねんね』や、『おしり』もおすすめ。



アリからみると  
著：桑原 隆一  
写真：栗林 慧  
出版社：福音館書店

虫が苦手な方はご注意ください！それでも、1ページ目のアリの巣から外に出る時に見上げた空の描写は、すごく惹かれるものがある。アリ目線なので、どの昆虫も迫力満点。公園などでよく見る虫が多いので、これを読んで虫捕りに出かけてみるのも良いかもしれません。



世界中のこどもたちが  
作：新沢 としひこ  
写真：篠木 眞  
出版社：ポプラ社

これは、絵本というより写真集と言っても良いかもしれません。有名な歌の歌詞とともにモノクロ写真で子どもの自然な表情に引き込まれます。出版社からの絵本紹介にも『世界中のこどもたちが、ありのままのこどもでいられるように、願いをこめて作りました。』と記載されています。

## 【今月の絵本作家】せなけいこさん

せなさんの絵本は、貼り絵で、表紙をみただけでせなさんの絵本かどうかすぐ判断出来ます。それは、せなさんが絵本づくりで『獨創性』を大切にされて、世に作品を送り出してきた結果だと思えます。デビュー作は息子さんの為に描かれた絵本で、世に出るとは思っても見なかったと当惑を振り返られています。時間を見つけては、読み聞かせに出向き生の子どもの声を聴いて作品づくりをされているせなさん。貼り絵に使う紙は包装紙だったり、チラシだったり様々らしく、気に入った柄が使いたい時に使えないと嫌だから、気に入った紙は余分に買って置くのだとか。味を出したい時やふわふわした感じを出したい時は手でちぎり、しっかりとした線を付けたい時ははさみでと、紙を切る作業にもこだわりを持って使い分けているそう。

